

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名:	学域名:	部局長名:
経済学部	社会文化科学学域(経)	村井 浄信

目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1 受験生から「選ばれる学部」であり続けるために、在学生と連携した入試広報活動を積極的に展開し、一般選抜における志願者倍率2倍以上を維持する。 2 入学者選抜改善の2年前予告を実施するとともに、入試・高大接続部門および入試課と連携し、受験生のニーズを調査する。さらに、学校推薦型選抜において、入学前教育制度を導入する。 3 夜間主コース在学生に対する長期的なカリキュラムの管理・運営体制を整備する。 4 新カリキュラムの検証・改善を行うため、学生との対話の機会を設ける。 5 経済学部における多文化共修海外派遣プログラムECBO(Economics Cross-Border studies)の開発・実施に向けて、取り組みを進める。	(2-1) (2-2) (3-1) (7-1)	1 大学訪問で来学した高校生に対し、教員による説明に加え、当該高校出身の在学生が体験談を語る機会を設けた。オープンキャンパスに付き添いで来学した保護者を対象として、別室において説明会を開催した。こうした取り組みの結果、一般選抜(前期日程)の志願倍率は前年度から大幅に上昇し、4倍となった。 2 入学者選抜改善の2年前予告を実施するとともに、改善内容に関して高等学校への聞き取り調査を行った。入学前教育については、学校推薦型選抜Ⅰにおいて当初の計画通り導入するとともに、学校推薦型選抜Ⅱにおいても追加で提示し、入学前教育の充実を図った。 3 夜間主コースの募集停止に伴い、在籍者の長期的なカリキュラムに関する管理・運営体制の整備を進めた。 4 在学生と学部長および副学部長との対話の機会を設け、その実施状況を学部ホームページに掲載した。学生から寄せられた要望については、来年度に向けた検討課題とした。 5 経済学部教員が学生を引率し、多文化共修海外派遣プログラムECBO(ラオス・カンボジア)を実施した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1 カーボンニュートラルの実現に向けて、産学官金で連携し、CFP算定の取り組みを推進する。 2 卒業生および退職教員から「選ばれる学部」であり続けるために、ホームカミングデイの取組内容の検証・改善を行う。 3 共育共創のパートナーとして地域社会から「選ばれる学部」であり続けるために、経済学部が実施している産学官連携授業にご協力いただいている企業や官公庁と対話の機会を設ける。 4 公的マイクロデータオンサイト施設の利用を促進するため、学内の教職員を対象とした広報活動を実施する。	(1-1) (14-1) (15-1)	1 交流委員会がCFP算定の取り組みを支援し、『カーボンフットプリント活動成果報告会』を開催した。 2 ホームカミングデイの取組内容について検証・改善を行い、経済学部教員2名による特別講演「高齢社会の労働と社会保障」を実施した。 3 産学官連携授業にご協力いただいている岡山県中小企業家同友会と意見交換会を実施した。 4 独立行政法人 統計センターより講師を招聘し、公的マイクロデータオンサイト施設に関する説明会を実施した。本説明会を契機として、学内の他部局に所属する教員による当該施設の利用が開始された。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1 多様性を確保することで組織を活性化するため、女性教員採用割合30%以上および若手教員割合25%以上を目指す。 2 学部構成員の効率的・効果的な業務を実現するため、DX化を推進する。	(11-1) (15-1)	1 本年度に実施を予定していた採用人事については、次年度に実施することとした。 2 教授会資料の電子化を推進するとともに、教育研究支援室における資料の管理および点検業務についてDX化を進め、業務の効率化を図った。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。